

## 2006年6月議会のご報告

今教育基本法の改正が言われています。「愛国心の押し付け」や「全国学力テスト」の導入などが目的です。「愛国心の押し付けは戦争への道」と戦争を体験された人は口々に言っています。全国学力テストは子どもたちに勝ち組、負け組を持ち込むこととなります。

私は、「国を愛する態度の押し付けではなく、愛する国であるようにしてほしい。」と思っています。今教育に必要なのは、「1人1人の子供が大切にされる少人数学級にすること」「みんなが良く分かるように勉強を教えること」「体罰やえこひいきのない学校を作ること」などです。

教育基本法の改正に反対し、市内の子供たちが平和でのびのびと学校生活を送れることを願って6月20日、一般質問いたしました。

### 第1項目目は線引きの見直しについて質問いたしました。

線引きは人間と自然との調和、乱開発防止を目的に行われました。笠岡市はそのことを踏まえ、街の活性化、人口減に歯止め、若者の定住を目指して見直し案を発表しました。それをもとに市内13箇所で説明会が持たれ、私も5箇所参加したところです。その説明会を受け、いわゆる企業誘致エリアの拡大、住居建設エリアの縮小、を盛り込んだ修正案が出されました。少数意見ではあっても「市の掲げた目的達成には見直し案がすべてではない。」との意見も出されています。その真意を修正案と市政全般にどう生かそうとしているのかたずねました。

先の3月議会で市は「線引きの見直しは本来の目的に沿っている。農地法などの制約もあり、問題はない。」と述べる一方で、「できるなら農地法の撤廃、線引きを早く解消したい。」という答弁をしています。これは今は規制をかけるが、将来はすべて規制をなくしたいとも取れる答弁です。修正案はその流れに沿ったものと危惧されるがどうかとたずねました。

修正案が具体化されたら、駅前番町の商店が影響を受けると思います。「商店街に駐車場がない。」などの意見も聞きます。商店街、全市的意見を聞き、調和の取れた案にすべきとたずねました。

これに対し、市長並びに建設部長より、「市民の意見をすべて修正案に反映できない。案は線引きの目的、市の目的に沿ったもので、将来線引きを廃止したとしても市の条例で規制できる。笠岡市の将来のために、線引きの見直しと干拓が重要である。そのために強い決意をしている。」との答弁がありました。

### 第2項目目は水道料金の値下げについて質問いたしました。

笠岡市の水道料金は、経費と赤字解消を目的に平成10年平均25%の値上げがなされています。今市民から「料金何とかならないのか、」との声が上がっています。市の水道料金は県下で高いほうから第2位、県南でも第1位、13市の中でもトップです。最も安い早島町と比較して約4倍の高さです。収益の見込み、赤字解消計画を見直し、料金を値下げする考えはないのかとたずねました。

子育て真っ最中の家庭から「子供の洗濯で水道料金が馬鹿にならない。何とかしてほしい。」などの意見が出ています。全体に値下げを考えられないなら、子育て支援策の一つとして、中学校卒業までの子供1人につき、1割、二人なら2割と安くしてはどうか。そうすれば、鴨方町、里庄町とほぼ同額になります。とたずねました。

これに対し市長より「使用水量が増えることは期待できないし、設備の改善もあり、値下げは出来ない。他の市と比較は出来ない。子育て支援策としての値下げ提案はユニークな提案であり、検討できる課題であるが、私の決断ですぐできる問題ではない。」との答弁がありました。

### 第3項目目は島の振興について質問いたしました。

海援隊の活動のもとで、漁業を初めとした島の産業、修学旅行の受け入れ、空き家対策、島海社の取り組みなどで、島に新たな活力が生まれています。「14世帯31名島に来てくれた。すげーじゃろう。わしら頑張るぜ。」などと若者が語っています。島の産業の振興にむけ、現状の評価と、今後の考えをたずねました。

また、六島での保育園の開園、真鍋小、中学校での在校生の増加も生まれています。子供たちの声が聞こえる学校はその地域の支えで活力を与えます。教育の振興に新たな活力が生まれている現状の評価と今後の考えをたずねました。

私はつねづね島の振興には産業と、教育の振興が車の両輪であると述べてきました。65歳以上のお年寄りの比率は陸地部では25.9%、島嶼部では55.0%となっています。「海援隊におんぶに抱っこじゃなくて島の人全員で島のことを考えにゃーいけん時期にきとる。」「若いもんが、できりゃー島に残ってほしい。子供が出来、若者がふえりゃー昔のように島に活気が出るそれまで我慢してほしい。」などの意見もあります。島づくりの主体を今以上に島の人たちに投げかけ、若者を中心にした島づくりの合意を投げかけることが大切だと思います。とたずねました。

これに対し市長より「島の振興を自らの課題として考える意識変革がなされてきている。島の現状は笠岡市全体の問題を提起していると考えている。評価している。NPO法人を設立し、色々な事業を考えている。」

また教育長より「真鍋小中への転入は、島の教育の振興と、活性化で喜んでいる。島嶼部を中心として小規模校は笠岡市の特色。充実に向けて取り組んでいきたい。」との答弁がありました。

### 第4項目目は学童保育の充実について質問しました。

中央小学校の学童保育『アイアイクラブ』に在籍している児童は105名です。常時75名程度の児童がクラブに通っています。しかし1教室のみ使用です。放課後、外に出る児童がいても、30人から40人が限界です。現状は常識を逸脱した過密さだと言わざるを得ません。この問題で、16年7月環境福祉常任委員会が現状報告と、善処するよう申し入れまでしています。現状をどうとらえ、今後どうするかをたずねました。

1クラス75名は人権問題です。笠岡市も、市の教育委員会も人権人権と声高々に言っています。男女共同参画で働く婦人の権利を守るために条件の改善充実を述べていますが学童保育の充実もその一つです。子育て支援が国を挙げて叫ばれている中、口先だけではなく、すぐにでもできるところから子育て支援策を行うべきです。やる決意があるかないかの問題です。とたずねました。

教育長より「重要な子育て支援策と考えている。校長会にも資料を提出してその重要性を訴えてきた。該当校の校長とも協議して、努力をしている。学校教育と学童保育の両者の調整が必要である」との答弁がありました。

## 第5項目目として島の小中学校に勤務する

### 非常勤講師の待遇改善について質問しました。

島の小学校に勤務している非常勤講師の先生は、県採用、市採用合わせて11名です。採用の違いで時間給、交通費に大きな違いがあります。

非常勤の先生方の占める割合は、陸地部での6.3%から14.3%に対し、14.3%から20.0%です。非常勤の先生に頼る割合が大きいことが分かります。

同じ島に通ってる先生の待遇をそろえ、市で負担する考えはないのかたずねました。

教育長より「学校の教職員定数で不十分なので県に相談し、県の職員として、非常勤講師を派遣している。市の教育委員会は色々な課題に対応するため教育支援員を配置している。県と市はおのずと採用が違い、県へは県職員の交通費支給をお願いしている。市の職員は今の形態を継続して事業を続けたい。」との答弁がありました。

### 補正予算案に反対

補正予算案の中、市長の公用車購入費用問題で質疑を行いました。

市長の公用車購入費用が、補正予算案に400万円と計上されていました。公用車は必要だとしても、費用は市民の税金です。財政危機が叫ばれ、市民生活が苦しくなっているこの時期、400万円もの公用車購入は市民感情を害することになりはしないかとたずねました。

助役と担当部長より「安全性と耐久年数を考えた結果だ」という答弁がありました。